

にんぎよひめ

【やくわり (3にん)】

- ・ Aさん：おばあちゃん／にんぎよひめ
- ・ Bさん：こども／おうじさま
- ・ Cさん：ナレーター／おひめさま／

だい1まく：むかしなしの よみきかせ
(ろくおん)

おばあちゃん (A) 「きょうは、『にんぎよひめ』のおはなしをし
ようね。」

こども (B) 「わーい！ おばあちゃん、 にんぎよひめってほんと
うに いるの？」

おばあちゃん (A) 「そうだねえ。 むかし みたって ひとが いるん
だけど、 ほんとうは どうなんだろうねえ。」

こども (B) 「はやくー！ はやく よんでー！」

おばあちゃん (A) 「はいはい、 すわって すわって。 しずかに き

くんだよ……。 むかしむかし、 とても きれいな うみがありまし
た。 そこには、 うつくしい にんぎよひめが すんでいました。」

だい2まく：うみの うえの あらし
(ぶたいがあかるくなる。 うみの なか)

にんぎよひめ (A) 「あーあ、 うみのそこは まいにち おなじで
つまらないわ。 おねえさまたちは りくのおはなしを してくれるけ
れど、 わたしは まだ いかせてもらえないの。 なにか たのしいこ
とは ないかしら？」

(ふねのおと)

にんぎよひめ (A) 「あら？ ふねの うえで たのしそうに ダンスを
おどっているわ！ なんて かっこいい おうじさま なのかしら！ み
とれちゃう……。 あつ、 ふねが ちかづいてきた！ かくれなくち
やー！」

ナレーター (ろくおん) 「きょうは おうじさまの 16さいの たんじ
ようび。 ふねでは パーティーをしています。 おや、 とおくで か
みなりが なっています。 はげしい あらしに なりそうですよ」
(こうかおん：ドーン！ ガラガラ！／あらしの おんがく)

おうじ (B) 「うわあああ！ ふねが しずむー！ ぶくぶくぶく……。
(たおれる)」

にんぎよひめ (A) 「たいへん！ おうじさまが しずんでいくわ！
たすけなくちゃ！」 (ぶたいがくらくなる)

だい3まく..はまべの たすけあい

ナレーター(ろくおん) 「あらしがすぎ、 あさになりました。

にんぎよひめは、 きをうしなつた おうじさまをはまべまではこ
んでいきした。」

にんぎよひめ (A) 「どうか、 めをさましてくださいね。(そつと

おうじをおいて、 かくれる)」

おひめさま (C) 「あら？ こんなところにひとが！ だいじようぶ
ですか！」

おうじ (B) 「いっほつ、 いっほつ…… (おきあがる) ここは……？」

おひめさま (C) 「よかった！ きがつかしましたね。 さあ、 わたし
の おうちで やすみましよう。」

(おひめさまとおうじ、 たいじよう)

にんぎよひめ (A) 「よかった、 たすかったみたい。 ……でも、

あのかたとちゃんとおはなししてみたいわ。 このすがたじゃおど
ろかれちゃうし……。 よし！ うみの そのの まじよのところへい
ってみよう！」(にんぎよひめ たいじよう くらくなる)

だい4まく..まじよの やかた

ぶたいが あかるくなる

まじよ (C) 「いーっひっひ！ めずらしい きゃくだねえ！ いわな

くてもわかっているよ。 にんげんの あしがほしいんだろう？」

にんぎよひめ (A) 「えっ！ どうしてわかるの？」

まじよ (C) 「なんでも おみとおしき！ くすりを のめばあしは
はえるがね、 あるくたびに ナイフで さされたような いたみがす
るよ。 それでも いいのかい？」

にんぎよひめ (A) 「(すこし かんがえて) はい！ かまいませ
ん！」

まじよ (C) 「そのかわり、 だいきんとして おまえの 『きれいな
こえ』を もらうよ！ こえが なきゃ、 おもいをつたえることもで
きないがね！ いーっひっひ！」

にんぎよひめ (A) 「わたしの こえを……？ (なやむ。 けっしんし
て) わかりました、 わたしの こえを あげます！」

まじよ (C) 「そうこなくっちゃ！ さあ、 この くすりを おのみ！
それから、 こまったときの ために この ふくろも もっていき
な！」

にんぎよひめ (A) 「ふくろ……。 くすり……。 これを のめば… (いっ

きに くすりを のむ) ……うつ、 のどが やけるように いたい……
あしが……！」

まじよ (C) 「そうそう、 さかなの しつぽが あしになるんだ。 ある
くときは げきつうだろうさ。 さあ、 はやく はまべへ おいき！ りく

につくまえにあしになって おぼれてしまうよいーっひっひー!

にんぎよひめ (A)

「いたい、いたい……ぐううう……(あしをひきずりながら たいじょう)」

(ぶたいくらくくなる)

だい5まく：しろでの さいかい

ナレーター (C) 「はまべで たおれていた にんぎよひめを、 おう

じさまが みつけて おしろへ つれていきました。 にんぎよひめは こえをうしない、 あるくたびに あしが いたいのでした。 それでも、 おうじさまの そばに いられるだけで しあわせでした。」

おうじ (B) 「おしろに きみが きて ずいぶん たった。 きみが しゃべ

れないのは ほんとうに かなしい。 きみの なまえすら わからない。 でも きみは うつくしい。 まえに はまべで たおれていた ときに ぼくを たすけて くれた ひとにと ても に ているよ。」

にんぎよひめ (A) (ひっこひいてをふって 『わたしですー!』と アド

ールする)

ナレーター (C) 「けれど、 ことばの つたわらない にんぎよひめ

の きもちに、 おうじさまは きづくことが できませんでした。」

おうじ (B) 「そうそう、 きょう きみには なしておかないといけな

いことが できたんだ。 と なるの くにの ひめと けっこん することに なってね。 でも、 ぼくが ほんとうに すきなのは、 あの あらしの ひに ぼくを たすけて くれた ひと なんだよ……。」

おひめさま (C) (こうじょうして いちれい) 「おうじさま、 はじめまして。」

おうじ (B) 「あつ！ あなただ！ あらしの ひに ぼくを たすけて くれたのは！」

おひめさま (C) 「まあ、 あの ときの だったの ですね！ ぶじで よかった！」

おうじ (B) 「ああ、 なんて しあわせ なんだ！」
(にんぎよひめは どういう か おをして いれば いい でしょう?)

(かねのおと：カラーン カラーン)

ナレーター (C) 「おい かいのかねが なり ひびき、 ふたりの けっこん しが おこな われました。 にんぎよひめは かなしみで むねが はり かけ そう でした。」

にんぎよひめ (A) (こえが でない なかで、 まじよの ふくろを あける) (ふくろの こえ) 「こまった ときに、 ふくろを あけろ って……」

れは ナイフ!? …… 『これで おうじの むねを させば、 もとの

すがたにもどれる』……?」

(にんぎょひめ、ナイフをもっておうじにちかづく)

おひめさま「キヤーっ!」

おうじ (B) 「どうしたんだい、にんぎょひめ? そのナイフは!？」

にんぎょひめ (A) (くびをよにぶり、えがおになる。じぶんのむねをナイフでさす。たおれる)

おうじ (B) 「だいじようぶか、いしやを、いしやをよんでくれ! なにをばかなことを……。ああ。にんぎょひめからだが……。あわなっていく」

にんぎょひめ (A) (ちかづく) 「さようなら、だいすきなおうじさま……。わたしは あなたをきずつけることはできません。わたしはうみのあわになって、かぜになって、ずっとあなたをみまもっています……。」

(にんぎょひめ、消えたりたおれる)

おうじ (B) 「ひめ……!」

だい7まへ: エンディング

おばあちゃん (A) 「……こうして、にんぎょひめはうみのあわとなり、そらへのぼっていきましたとき。おしまい。」

ごども (B) 「そつか……。にんぎょひめはかわいそうだけど、とってもやさしかったんだね。」

おばあちゃん (A) 「そうだねえ。だれかをたいせつにおもうきもちは、とてもうつくしいものなんだよ。」
(まへ)